



利  
1966  
4



1966  
4



霍子集卷之四目錄

立秋

秋柳

七夕

于京望氣

又月

秋草

女高苑

二象

露

秋

苑火

秋撲

秋

芭蕉



禮記

司馬

名月

中

鹿

編書

未定

五

禮記

月

序

田

新

禮

九月九日

并菊

禮記

名未定

名未定

雜

禮記

名未定

雀子集卷之四

とくち秋

栞別体甫

かんのあもあとのりもねと秋は雪

かね新月潭

み厚よと風らんぶるそ秋の風

そのとちやうとしいに秋の雪

自別文田茂文



かりゆり追善よりなる

とれりあてらるぬよ系柳

前林見笑

追善よりなる

とれりあてらるぬよ系柳

宝町吉村

秋風と柳とちりとりありよあり

露

熊谷信貞

西住院殿淨屋清壽信女追善

よけりなる

とれりあてらるぬよ系柳

不潔

追善よりなる

とれりあてらるぬよ系柳

新法師









Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

信親

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

信親

Main body of handwritten cursive text on the left page, written vertically.

信親

あつて三つてぬるひのりたあめ

中尾家久

八のちりるうてりる向方ちりる天念

おみ子貞也

舞を美よ地きおちんしれうけ地

中村正也

夢のちりる次中りりりやあ蓋し名蓋

物洞院久生

あつてあつてあつてあつてあつて

おら成次

あつてあつてあつてあつてあつて

中村正也

あつてあつてあつてあつてあつて

堀池崎也

あつてあつてあつてあつてあつて

おら成次

浪神とておのりのお説

とあつておのりのお説

橋本清安

七月とておのりのお説

貞乾

おのりのお説

懐素并一矢子

おのりのお説

おのりのお説

花火

懐素

おのりのお説

懐素

おのりのお説

文月

作名不詳

心もあつらひしりし時りあはれ

らるるるるるるるるるる

かきかきかきかきかきかき

舟は静寛

浮ぶる船りしりしりしりしり

なむ新月潭

なむら中ぬらひりあひら

かきかきかきかきかきかき

あはれんしりしりしりしり

あはれんしりしりしりしり

あはれんしりしりしりしり

あはれんしりしりしりしり

田中易氏

あはれんしりしりしりしり

あはれんしりしりしりしり

あはれんしりしりしりしり

旅の形を方

五月のまゆらうひや

おすま摺り

懐かき水

おまへとまへと

懐かき水

おまへとまへと

旅の形を方

五月のまゆらうひや

懐かき水

おまへとまへと

懐かき水

くさくさいとおどろくはるる

物別院書氏

くさくさいとおどろくはるる

場池詔成之

くさくさいとおどろくはるる

新草

東之條尚女

くさくさいとおどろくはるる

くさくさいとおどろくはるる

本國寺定相法師

くさくさいとおどろくはるる

定相法師

くさくさいとおどろくはるる

村山書氏

くさくさいとおどろくはるる

後山書氏

有禱きくやの記も一くり

山平書著

花のつゝ錦うねるれくすれ

山平書著

孝行のてららんあぬあひ可き

山平書著

石塔のしきいりあ九りん

山平書著

しるしきいりあ九りん

山平書著

細いわていじいあ九りん

山平書著

あて老母いりあ九りん

山平書著

らんあ九りん

山平書著



下枯りのくらしるやなると海

新江持寛

魚花とじけいもやあのみまじり

東山果垣新

うそく人よひのやうくしりすまじり

ふね軒基氏

熊のまやうらうらとくまひおひま

たの向よひくらしりさやあつ穂

霧のまもわりたり牛れいしりま

穂よてもまあうらうらまの病の

穴とまのたなまうらぬの尾花れ

蝶の糸ひくやかまき其れ物よま

林の中も縁蘭あつや卯あはな

塙成元

物白や池田の若のま出りれ

塙成元



朝江行寛

わさささささささささささささささ

なむ新月潭

さささささささささささささささ  
長きさささささささささささささ

権記

なむ新基氏

さささささささささささささささ

なむ新基氏

さささささささささささささささ

なむ新月潭

さささささささささささささささ  
さささささささささささささささ  
さささささささささささささささ  
さささささささささささささささ

橋中勝也



小正廣治

月影をみればおのづから心は静か

坊に盡法師

くまの影をみればおのづから心は静か

伴登志彦

おのづから心は静か

多んちんやんやんおのづから心は静か

奥の知鏡

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

おのづから心は静か

月のゆきよのちかえれきりし

塙忠信

よのすく物あつあつや月の影

おね新

新うつくしき月よのちかえれきりし

田貝源三

うたせよのちかえれきりし

若田山武

うたせよのちかえれきりし

三浦及人

うたせよのちかえれきりし

清心

あれ月のちかえれきりし

新田加兵衛

月のちかえれきりし

あれ月のちかえれきりし

春日正哉

百姓も田うらやもせん秋乃月

入川盛徳

見よと人の心さす月影

奥別清久

月の影さすてそらうんらん

中村西之

しほとる月あけさるるおの

春林見哉

月影なびくおのる影さるる

それいれよおのる月影らん

おのる春子哉

笑ふ心さすくすく月影

東六条新傳

足てる心さすくすく月影

堀貞也

月うげの扇風のうらとねとてん

協栄寺

うらとねのうらとねのうらとね

橋本軒

うらとねのうらとねのうらとね

橋本軒

うらとねのうらとねのうらとね

橋本軒

うらとねのうらとねのうらとね

橋本軒

うらとねのうらとねのうらとね

うらとねのうらとねのうらとね

三田村

うらとねのうらとねのうらとね

うらとねのうらとねのうらとね

井宮



うつくよき月をみれば月はね

目録法書家文

香月よきもよしん丸はかき月

あつてもくも白く月の鳥

橋中法書

見物よきひびくわらわりの弓

西洞院久松

ふりつよきつよきつよきつよき

奥列巻元

十三日の月とるん竹りて

たり

あつてもくも白く月の鳥

堀池法書

よきつよきつよきつよきつよき

東村法書

あつてもくも白く月の鳥

20m... 狭竹新之方

月影とくすくすおこるるるる千日事  
なな月

うらみの津ちありんする七重月  
三葉山印細武  
村山栄信

なつちわりの海舟のなれ玉  
奥到法久

林

おきのありりんとおのくさ月  
伏見一蓋法師

姓月と娘<sup>かこやそ</sup>後山くえんしと地  
長茂加美

なつ月かみよつとよしとちのうたん  
神泉ゆき

名月かんよつとよしとちのうたん  
長茂加美

名月よつとみは月をわく

名月よつとみは月をわく

うぬの月の月をわく

初筑

そららんこゝろみすは月をわく

そららんこゝろみすは月をわく

名月よつとみは月をわく

名月よつとみは月をわく

辛入てせす八月の月をわく

辛入てせす八月の月をわく

名月の月をわく

名月の月をわく

名月の月をわく

名月の月をわく

名月の月をわく

名月の月をわく

そのもとよりうらやまのまふれ月  
なむの基成

かゝあめそとわやあうあや月の銀  
月の嵐人の影うものこよひうれ

詠行新々音

くろくそあうれこふんくふの月  
昼うくくこえちあうれ月  
ちあきそらよあて月やあきん

鳥

大坂久本

秋あめつらくらくらく月れ

但列名生法那

いそらふるはけれのまふ

奥島清久

月のあくとく海名うんらん那

山崎一重

月かよひてゆくも糸のたより

のき

本國のちり紙は紙

まじりてゆくも糸のたより

清公

秋のきよきもゆくも糸のたより

秋のき

まじりてゆくも糸のたより

まじりてゆくも糸のたより

まじりてゆくも糸のたより

秋のき

まじりてゆくも糸のたより

秋のき

まじりてゆくも糸のたより

まじりてゆくも糸のたより

まじりてゆくも糸のたより

秋の田はあけぬまのうら

塚成元

山さし秋のうら

石列堂書

秋の田はあけぬまのうら

田

新中作一

秋の田はあけぬまのうら

奥列智鏡

秋の田はあけぬまのうら

秋の田はあけぬまのうら

秋の田はあけぬまのうら

秋の田はあけぬまのうら

文心書

秋の田はあけぬまのうら

小倉季の書

まづくはみよのむらの田うきぬ

有田正茂

うら田に坊うきぬきぬらぬ

ゆきゆきぬきぬきぬの田うきぬ

お吉孝茂

川人の清きしきもわき田うきぬ

仲尾家久

舟とをきしきゆきぬきぬのうきぬ

あせのきぬきぬのゆきぬきぬ

森氏加笑

きぬきぬきぬのゆきぬきぬ

川守子秀延

きぬきぬきぬのゆきぬきぬ

成守

吹風よりのきぬきぬのゆきぬきぬ

久ね

田舎の佛のみよきぬきぬのゆきぬきぬ

なれ新月澤

傍郊のやわの田より番れ又字

加笑

人の子より傍郊の田よりん

春田家

しりとりて世代とありしり田家

秋の田より

秋の田より

解

隅比崎成之

りすのなやわのりぬのりし

月澤

一おらららはらぬら

よひらららららららららら

川島子

まらららららららららら

白

年



秋氏加笑

若くはあすもふらふらとよるあはれ

あはれ

名ももゆるすあはれとよるあはれ

場宗能

棹舞のうしあはれなうらなふらふら

鶺鴒

あはれ

らくらくとあはれなうらなふらふら

あはれ

あはれなうらなふらふら

あはれなうらなふらふら

あはれ

あはれなうらなふらふら

あはれ

あはれなうらなふらふら

稲葉

正橋

田のこまきりきりきりきり

善心常成

くまのひらひらひらひら

久ね

いかりきりきりきりきり

高川盛実

いかりきりきりきりきり

紙衣志法

いかりきりきりきりきり

礎

酒舟

いかりきりきりきりきり

塙地崎成之

いかりきりきりきりきり

常心

くはゆるくサてわてくまきあひひ

心

ぢきくくくくくくくくくくくく

なむね

くくくくくくくくくくくくく

ひひひひひひひひひひひひひ

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくく

けんくんとくくくくくくくく

親應法師

徳うらわらぐくくくくくくく

場成元

くくくくくくくくくくくくく

場成守

くくくくくくくくくくくくく

よらる

〜

知<sup>り</sup>倚<sup>り</sup>序のほあ〜

堀松山成池

移<sup>り</sup>けこじ〜

なれ新月燈

な〜ら〜

えれ〜

な〜ら〜

ゆ〜

〜

〜

〜

〜

〜

久ね

柿のりして人丸じまのらぬいれ

作名しうと

うららむむかま下まらぬ久保柿

田中忠徳

くまらむむかま下まらぬ久保柿

場宗永

くまらむむかま下まらぬ久保柿

追慕ようつういゆら

川のせせらむむかま下まらぬ久保柿

貞乾

何ららむむかま下まらぬ久保柿

月澤

二位坊やのりしてひらふ一徳れ

定雅法師

あつとむかま下まらぬ久保柿

伴家兼知見法師

秋の暮あはかろくもあつたにわらめはし

ふ山成次

とばうんよわりせうにせよまふらぬ

依見慰聽

りしにたもふあさの栞のよわりの

なれ朝月潭

かしくいふもむきやり老ふれ

奥別法久

蟻しにたんしぬりく

のまかん事よてゆらうこま

さわりたりくわりまのそら

のころしゆりかぬんしよ

しつらうしつら

くしう蟻やかしのぬま

よみくし

あつたむらさきむらさきむらさき

塚安法

山崎より人よら〜

態名傍身

大いさよりよ〜

船江狩寛

山崎抄や〜

九月の句菊

山千西武

あふ縁よの杉目よ〜

ゆり懐衣のれり〜

〜

杉目よや〜

楽六條高女

あふ道ひり〜

あふととれ兒よ〜

相東西次

さくまうくくからさるのびん  
くまうくくからさる

約してさ物終やさくはし

田中易氏

焼くくからさるくくからさるおろれくく

なれ新日澤

もよるくくげんさる魚材為草

くゆあくら我られくくは酒

仙人と百人との仙人菊のさけ

はんがさくくやじやんぬでの酒

菊ぬはさくくんとおち肌

は尺酒ちさくくさくくは草

じよちうくくさくくは菊は酒

小崎川後

あきさくくくくをさくくく

りれてPのり

三十一

三十一



ついでついでついで目貫やうね葡萄

久ね

うねのついでついでついで

秋代加茂

うねのついでついでついで

吉伴

うねのついでついでついで

場守村宗信

おけや袖のれうねの葡萄れお  
うねのれうねのれうねのうら

中村正幸

葡萄のまはらうねのれうねのれ  
みつこのれうねのれうねのれ

井上な之

うねのついでついでついで

右林見矢

波さるる常は海より菊は淵

川若通能

菊はけよれさしや少しは底もど

堀成文

河童の来さつて菊は心淵

結竹新支方

あまみとんみられ花草  
さき

琴氏月障

二神よほくくやりのものもみれ

あまみとんみられ花草

あまみとんみられ花草

おら成次

あまみとんみられ花草

仲村心を

あまみとんみられ花草

新江村寛

秋乃ちりてきても去るや秋乃ち

秋葉

流紙

ころもよあぬのさした秋葉れ

入川

秋乃よしよしゆきかのみさ

法心

巧麻のきくらむらさきの

石列道

仙翁のくわきりあてあれ

おねね月

せんいりくまらふりて下あ

くわらふいんたのわうじりあ

られん人のさうさあはし

音れ海むらあふりあ

坪川南氏

今より下へ流るるより下へ下りて

忠法

知事よりこの書もたると

小山成次

庵別ありぬれ助平より

ゆりてパーク

わんよとてりてわんよとて

場業言

新田河のちうけりて

大坂傳南

者小田とておとんおとれ

名小おとれ

お水敬別

お水おとれおとれ

右林見矣

結よくくのぬ極のの葉わみれ

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ  
結よくくのぬ極のの葉わみれ

結よくく

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ

おれ新しん月げつ澄じやう

おれ新しん月げつ澄じやう

結よくくのぬ極のの葉わみれ

竹如知法師

手やうぬ見からしく

うううう

風の心の吹わけよけらるる

おねねり澄

つねにまよひまよひの世のいろは

ゆふのあふらうとよゆかみぬ

赤くんとくらくらり此のうら

第四十三丁欠

塚守村宗信

買えそらんしけの料ね

難私

塚安治

うさむねのちよぶの着たんこ

養安法師

けいさかんまみそ草のうら

知法師

雀集卷之四

親のよきおかしきことなるの草花

中村元辰

うさぎの足は月の影の如く

お高季茂

雲のうららかに咲く花の如き

お杉物月澄

ふりそめてゆく雲の如き

草の子は曲がりくねるの如き

楊中法安

子草はうららかに咲く

熊谷信貞

おかしきことなるの草花

堀山

うさぎの足は月の影の如く

お高季茂

雲のうららかに咲く花の如き

皇集卷之四 四十五

皇集卷之四 四十五

皇集卷之四 四十五

皇集卷之四 四十五

皇集卷之四 四十五



1



